

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・来客数は3か月前と比較すると、安定して増えている。それに伴って、これまでコロナ禍で抑圧されていた需要が増えている。
	◎	観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・3か月前はまん延防止等重点措置の適用期間だったこともあり、宿泊予約の動きも鈍かったが、道民割の再開とブロック割の開始、当市の宿泊割引の再開などでお買い得感が強くなっており、予約の伸びにつながっている。
	◎	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・5月の航空機利用者数は新型コロナウイルス発生前の65%程度の水準まで回復した。6月に入ってもこうした傾向が継続し、新型コロナウイルス発生前の70%台半ばの水準まで回復している。また、空港の駐車場利用者はほぼ新型コロナウイルス発生前と同様の水準に戻っており、ようやく本格的な回復基調に転じてきた。
	◎	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルス発生前の状況に戻りつつある。予約状況から7月以降も期待できる。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・3か月前と比べると新型コロナウイルスの影響も落ち着き、景気はやや良くなっている。徐々に新型コロナウイルス発生前の状況に戻りつつある。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・ツアー客の数がやや増えていることから、景気はやや良くなっている。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークを境に少しずつ人出が増えている。特に1次会の需要を受けるような居酒屋では予約は顕著に増えており、予約だけで満席になることもあるなど、まずまずの状況にある。ただし、夏のイベントやお祭りなどが中止となるなど、これまでの自粛の動きを払拭できない状況もみられ、経済の回復を遅らせることになるのではないかと懸念している。お祭りなどの野外イベントについては開催しても大丈夫だという強いメッセージが欲しい。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・売上は前年比795.3%、前々年比511.4%となっている。新型コロナウイルス発生前と比べても54.9%となり、ようやく50%を超えることができた。ただ、今でも企業にとっては経営が全く成り立たない厳しい状況にある。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の沈静化に伴い、飲食店やホテルに客足が戻っており、当社の売上増加につながっている。
	○	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴い、来客数は回復基調にあるが、2019年との比較では2けた以上のマイナスがいまだに続いている。ただ、買上率や買上単価の上昇で売上は新型コロナウイルス発生前の水準に戻りつつある。
	○	百貨店（営業販売担当）	それ以外	・服飾雑貨、リビング用品、子供用品が好調に推移している。ただ、アパレルを中心にセールを7月に繰り下げる動きがみられ、売上に悪影響を及ぼしている。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症による規制が徐々に緩和されつつあり、様々なイベントなどが開催されるようになったことから、客の動きも活発化し始めている。
	○	スーパー（店長）	お客様の様子	・売上は前年を上回っているが、前年は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出されていた時期であることを考えると物足りない。特に衣料品、化粧品などはいまだに回復傾向がみられない。新型コロナウイルス発生前の2019年との比較では98%程度の水準にとどまっている。
	○	スーパー（役員）	お客様の様子	・夏祭りなどの地域行事が復活しているため、関連する商材が売れている。
	○	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・観光について、個人客の動きがはじめており、景気はやや良くなっている。

○	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・前年と比べて客の行動が活発になっている。観光地などの店舗が前年や前々年と比べて上向いているため、好調に推移している。
○	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・予断を許さない状況ではあるが、人流がみられるようになっており、夏物が動いている。
○	自動車備品販売店（店長）	それ以外	・商業施設などの人流が増えていることから、景気はやや良くなっている。
○	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ランチが活況で、売上は新型コロナウイルス発生前の6割ほどの水準まで回復している。ただ、昼は来客数が増えてはいるものの、客単価が低い。一方、夜は来客数も客単価も回復しておらず、低調な売上が続いている。旅館やホテルでは道民割などの利用客が増えているようだが、高級レストランにはそうした影響もみられない。低価格帯の居酒屋は早い時間帯は若年層を中心に混雑しているが、午後8時を過ぎると閑散とする店もみられる。
○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響が収まりつつあり、懇親会などの需要が増えている。
○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・依然として新型コロナウイルスの新規感染者が出ているが、ゴールデンウィーク期間中に移動自粛などの措置がなかったにもかかわらず、その後の感染拡大もみられないことから、来客数が徐々に増加傾向にある。当店も感染対策を施しながら観光客の受入れを継続している。
○	旅行代理店（従業員）	それ以外	・旅行客が動き出していることから、景気はやや良くなっている。ただし、国の旅行政策がまだ中途半端なことから、余り過大な期待はできない。
○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数や電話などでの問合せが増えている。
○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・旅行希望者が着実に増加している。新型コロナウイルス発生前の水準にはまだ及ばないが、来客数や販売量の動きが上向いている。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・夜間のタクシー利用はまだ少ないが、稼働しているタクシーの6月の売上は新型コロナウイルス発生前のマイナス5%程度とほぼ回復している。ただ、高齢化とコロナ禍の影響でこの2年間で乗務員が約30%減っており、会社の売上は新型コロナウイルス発生前の2019年のマイナス35%となっている。
○	タクシー運転手	販売量の動き	・日中の客の動きは2019年と遜色なく推移している。ただし、夜の送客には回復の兆しが一向にみられない。
○	通信会社（企画担当）	来客数の動き	・店舗への来客数は前年の8割程度に落ち込んでいるものの、大型商業施設などでの出張販売については人出が増えていることもあり、前年から5割以上の伸びとなっている。それに伴って端末の販売量も増えている。ただ、競合他社との間で、割引制限のない旧端末での価格合戦となっており、戦いはし烈を極めている。
○	観光名所（従業員）	来客数の動き	・3か月前は1日の利用者が平均1000人台だったのが、6月は24日時点で平均2000人台となっている。ただ、新型コロナウイルス発生前と比べればまだまだの水準である。
○	美容室（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比べると明らかに人の動きが変わってきている。旅行、食事、文化サークルの活動、スポーツ観戦などの話題を客と話す機会が多くなっている。来店サイクルも新型コロナウイルス発生以前の水準に回復している。
○	美容室（経営者）	販売量の動き	・5～6月と売上が前月を上回るようになってきている。前年と比較してもやや良い状況にある。
○	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染状況は収束していないものの、感染状況が落ち着いてきていることから、3か月前と比べると観光客が増えている。それに伴って消費にも回復の兆しが見られる。
□	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみても難しい面があり、景気が良いとか悪いとかの問題ではなくなっている。

□	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者数は低い水準で落ち着いているものの、物価高が影響し、客足は遠のいたままである。道外からの旅行者は回復の兆しがみられるが、道内からの旅行者は依然として少ないままである。区域内の住民の買物は必要最小限となっており、当面不必要な商材の購入は控えられている。
□	商店街（代表者）	販売量の動き	・原材料の値上げが続き、当社も価格を上げざるを得ないが、末端メーカーであるため、販売しても利益が少なく困っている。
□	百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・来客数の動きをみると、3月が前年比92%、4月が前年比93%、5月が前年比96%、6月が25日時点で前年比93%と余り変動がみられない。一方、買上客数の動きをみると、3月が前年比97%、4月が前年比109%、5月が前年比116%、6月が25日時点で前年比105%となっている。3月と比較すると良くなっているが、5月がピークともみられることから、どちらの方向ともいえない状況にある。
□	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・売上は前年を上回っているが、商材の価格が上がっていることも要因となっている。来客数が減少していることの影響も懸念される。
□	家電量販店（店員）	単価の動き	・4月からの値上げの影響で、6月前半はやや買い控えがみられたが、夏物家電の品不足のニュースが流れたことで、月後半は予約客が目立つようになっている。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量はそれなりにあるものの、海外のロックダウンの影響によって納期が長期していることで購入を見送る客もみられるなど、全体としては厳しい面がある。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	単価の動き	・石油製品価格の高止まりによって販売量が鈍化している。
□	その他専門店 [造花]（店長）	お客様の様子	・ここ数か月、商材の値上がりが続いているため、買い控え傾向がみられる。今後も値上げが続くとみられるため、景気は不安定な状況にある。
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・5月も6月も来客数は余り変わらなかった。6月になれば少しは良くなるとみていたが、見込みほどではなかった。
□	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・道民割が実施されているが、北海道内の需要はほぼ一巡しており、客の反応がなくなっている。全国旅行支援が実施されなければ、景気が上向ききっかけもできない。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・まん延防止等重点措置の解除後から徐々に回復傾向にあるが、回復のスピードは遅く、コロナ禍以前の水準と比較すると、いまだに7割の壁を超えることのできない足踏み状態が続いている。また、ウクライナ情勢、原油高、円安の影響により消費マインドが抑えられていることもマイナスである。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルス対策を行った上でのイベントは開催されるようになったものの、規模が縮小されているため、来客数もそれほど増えていない。全体的な来客数もほとんど変化がみられなかった。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・コロナ禍のなか、いまだに先のみえない状況が続いている。人の流れはやや上向いてきたが、新型コロナウイルスの新規感染者数次第の面があり、まだまだ注視していく必要がある。
□	美容室（経営者）	お客様の様子	・物価高を懸念している人が多いことから、景気は変わらない。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームに来訪する客の購買意欲は衰えていない。購入を決定するまでに要する時間も短い。
▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・自粛疲れの反動によるリベンジ消費が盛んであるが、値上げが一段と進んでいることに加えて、株価低迷が消費者心理に重くのしかかっている。来客数が減少している上、販売点数も減少気味である。

	▲	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・メーカーからの新車供給の状況がますます悪化している。これまでの受注残はマックスに膨らんでおり、解消には年単位の時間が掛かると見込まれる。新車や中古車の売上に期待を持ってない状況にあり、しばらくは現在の状態がスタンダードになるとみられる。
	▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・直近において、販売量が前年を下回ることが多くみられ、車検や点検の入庫台数が目標を割ることもみられる。客が価格の安い店舗を選ぶ傾向もみられるようになっている。
	▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・車の納期が長期化していることが影響し、販売量が上向いてこない状況にある。ただ、メーカーの生産状況を見ると、上海のロックダウン解除に伴って、納期が少し早くなっている。
	▲	その他専門店 [医薬品] (経営者)	単価の動き	・2020～2021年にかけては新型コロナウイルスの影響で景気が良かったが、現在の景気は落ち着いている。悪いことではないが、経営的にみると厳しい。
	×	スーパー (従業員)	お客様の様子	・販売価格の上昇に伴って、客単価の上昇、買上点数の減少、来客数の減少などの動きが顕著になっている。客の買い控え傾向が強まっている。
企業 動向 関連	◎	*	*	*
(北海道)	○	建設業 (役員)	受注量や販売量の動き	・前年度からの繰越し工事に加えて、新年度に受注した工事が本格的に着工した。当初計画を上回るペースで進行しており、出来高が順調に積み上がっている。
	○	輸送業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・トレーラー輸送については、本州向けの生乳、紙パルプ関連が堅調に推移しており、農産品も前年度在庫品の荷動きが出始めている。また、本州内での一般雑貨も順調である。今後についても関東地区の早い梅雨明けによる飲料関連の伸びを期待している。倉庫についても、バター、粉乳の保管数量が依然として高い水準で推移しており、しばらく好調が続くと見込まれる。
	○	金融業 (従業員)	取引先の様子	・人の動きが活発化していることで、個人消費については持ち直しの動きがみられる。ただ、物価上昇による節約志向もみられるなど、2極化の状態にある。道内景気は力強さに欠けるものの、コロナ禍の影響が大きかった3か月前と比べるとやや良くなっている。
	○	司法書士	取引先の様子	・不動産業や観光業の取引先の様子から、新型コロナウイルスの影響による自粛の動きが段々と弱まっていることがうかがえる。また、道民割などの再開やブロック割の開始に伴って、旅行業や観光バス事業者などの業績も伸びている。不動産業は低調と言われているが、季節的に繁忙期となるため、3か月前と比べると取引量が増えている。
	○	その他サービス業 [ソフトウェア開発] (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・人材不足のせいもあって受注単価が上昇している。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・3か月前と変わらない売上となっている。
	□	輸送業 (支店長)	取引先の様子	・景気はさほど変わっていない。現状維持で推移している。
	□	司法書士	取引先の様子	・全国的に新型コロナウイルスの感染者数が減少し、少数ではあるが外国からの観光客の受入れも開始されるなど、景気が上向く機運もみられる。ただ、ロシアのウクライナ侵攻に伴う、原油、ガスなどの価格高騰を要因とする諸物価の上昇が著しく、景気回復に水を差す状況となっている。不動産など、高額な商材の取引はまだ低迷したままである。
	□	その他サービス業 [建設機械レンタル] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・5～6月の売上をみると、若干ではあるが、前年割れの状況が続いている。ただし、業界的には都心部を中心に再開発などの民間設備投資が堅調に推移している。
	□	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・スポット案件などもあり、売上は順調に見えるが、ベース商材の動きが鈍く、全般的に仕事量が少なくなっている。

	▲	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ 当地の再開発が注目されているが、その他の業務は少ない。報道されているように業界の年間業務量は半減している。
	▲	通信業（営業担当）	取引先の様子	・ 通信・IT業界において、コロナ禍の影響による景況感悪化は軽微であったが、半導体のひっ迫に伴って納期遅れが生じており、業績への影響が拡大している。景況感はやや悪くなっている。
	▲	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・ 物価高と納期遅れのため景気が下向いている。
	×	—	—	—
雇用関連	◎	—	—	—
(北海道)	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ ここ2～3か月、企業の潜在的な求人意欲が感じられたこともあり、地域の新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴って、求人件数も徐々に増加している。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・ 前月に引き続き観光関連業界である飲食店や宿泊業の求人が堅調である。また、小売業の求人も増加傾向にある。ただ、求人数が増加している一方で、全体的に求職者の応募数が少なく、採用に苦慮している企業が多い。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ 3か月前と大きな変化はないものの、飲食業、宿泊業、小売業の求人数が若干増えるなど、明るい材料もみられる。新型コロナウイルス新規感染者数が落ち着き、個人消費が活発になっていること、外国人観光客の受入れが再開されたことなどによる期待感の表れとみられる。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ 飲食業界、ナイトワーク業界からの広告掲載申込みが回復傾向にある。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 当地における5月の有効求人倍率は0.88倍であり、3か月前と同様の水準となっている。
	○	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・ 企業の新卒採用活動が新型コロナウイルス発生前の状況に戻るなど、活発である。一方、学生は、コロナ禍での企業活動の停止、休止を強く意識しており、飲食、旅行、ホテルなどの業種から内定を得ていても就活を継続する動きがみられる。全体的にみると、企業の動きが非常に良いことから、景気は上向いている。
	□	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・ 求人数が増加傾向にあるなど、企業の採用意欲は旺盛にみえる。また、採用基準が上がっていることから、良い人材を積極的に採用したいという意向もうかがえる。当社から提案した人材が一次面接につながる件数は前年比で5割増しとなっている。
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・ 5月の新規求職者数が前年から12.2%増加し、新規求人数が前年から12.1%増加している。懸念材料はあるものの、業況が堅調な企業を中心に求人が増えている。
	▲	職業安定所（職員）	それ以外	・ 食品や日用品、光熱費、燃料費の大幅な値上がりと賃上げの抑制がマイナス要因となっている。
	×	—	—	—